

三菱自動車、新型『エクスパンダー』をインドネシアで発表 ～SUVらしいスタイリングと環境性能をさらに強化したクロスオーバーMPVに進化～

三菱自動車工業株式会社（本社：東京都港区、代表執行役社長兼最高経営責任者：加藤 隆雄、以下三菱自動車）は、デザインを一新して環境性能を向上させた新型クロスオーバーMPV『エクスパンダー』をインドネシアで本日発表し、11月11日（木）より開催される第28回インドネシア国際オートショー^{*1}にて展示します。同モデルは三菱・モーターズ・クラマ・ユダ・インドネシア（所在地：西ジャワ州ブカシ県）^{*2}にて生産し、同国で販売開始後、順次アセアン地域を中心に展開していく予定です。

*1：正式名称は The 28th GAIKINDO Indonesia International Auto Show

*2：出資比率は三菱自動車 51.0%、三菱商事 40.0%、Krama Yudha 9.0%



新型『エクスパンダー』

『エクスパンダー』は次世代クロスオーバーMPVとして2017年にインドネシアで販売を開始以来、アセアン、中東、中南米、南アジア、アフリカと販売市場を拡大、2019年にはシリーズの最上位モデルとなる『エクスパンダー クロス』を追加し、2021年10月末までに累計販売台数はシリーズ合計で約372,000台に達しています。新型『エクスパンダー』は、フロントとリアデザイン、およびインテリアデザインを一新してSUVらしさを高めるとともに、トランスミッションには新たに高効率CVTを採用することで低燃費化を実現しました。

当社社長の加藤隆雄のコメント

「ユーザーニーズをとことん追求して開発した『エクスパンダー』シリーズは、アセアンをはじめ展開している各国でご好評をいただき、当社にとっての最重要モデルの一つにまで成長しました。新型『エクスパンダー』は細部まで見直し、よりアクティブでタフなモデルへと進化させており、お客様のカーライフをより充実したものとするお手伝いができると考えています。また、このモデルを通してインドネシアでのプレゼンスをさらに拡大し、現地生産を強化することで、同国の経済発展にも貢献してまいります」

1. 主な商品特長

- (1) SUVらしさを強化し、上質感を高めた内外装デザイン
- (2) 環境性能を高めながら走行性能を向上
- (3) スマートフォンに配慮した快適装備や各種収納スペースを充実

2. 商品概要（インドネシア仕様）*3

*3：車両の仕様と機能はグレードや市場によって異なる場合があります。

- (1) SUVらしさを強化し、上質感を高めた内外装デザイン
 - フロントは力強さと安心感を表現するデザインコンセプト「ダイナミックシールド」を進化させ、低重心なイメージの水平基調のバンパー、立体的なスキッドプレートを採用しました。また、新世代のヘッドライトユニット形状としてTシェイプヘッドライトを新たに採用、上級グレードでは視認性に優れたLED式としています。
 - リヤは新世代のランプ造形と横基調のリヤバンパーにより、ワイドで安定感のあるスタイルとしました。リヤコンビネーションランプは面発光によるTシェイプテールランプを採用すると共に、従来のテールランプとバックランプに加えてストップランプをLED式とし、夜間の被視認性を向上させています。
 - 最上級グレードのタイヤとホイールは17インチにサイズアップし、アルミホイールは2トーン切削光輝仕上げのラウンドリムタイプを採用することで、力強く先進的なデザインとしました。フロントオーバーハングは75mm、リヤオーバーハングは45mm延長し、上級感のあるプロポーションに仕上がっています。また、先代モデルよりも車高を15-20mm高めることで、クラストップレベルの最低地上高となる220-225mm*4を確保し、悪路走破性を高めました。
*4：CVT車は最低地上高220mm、MT車は一部グレードを除き最低地上高225mm
 - ボディカラーでは、リアルな金属感で力強い印象を与えるブレードシルバーメタリックを新たに追加しました。その他、クォーツホホワイトパール、グラフィックグレーメタリック、ジェットブラックマイカ、レッドメタリック、ディーブブロンズメタリックをラインアップしています。
 - 上級グレードのインテリアでは、水平基調で見切りの良いインストルメントパネルにデザインを一新、ステアリングはスポーティで力強い印象を与えるデザインとしながら、ユーザーが使いやすいグリップサイズと形状に変更しています。また、アームレストやドアトリムには、合成皮革とリアルステッチをあしらったソフトパッドを採用し、上質感を高めています。このほか、風量レベルや温度設定が一目で分かりやすい液晶表示の空調パネルや、グラフィックデザインを変更したハイコントラストメーターを採用し、視認性を向上させています。



(2) 環境性能を高めながら走行性能を向上

- トランスミッションには高効率 CVT を新たに採用しました。アクセル高開度では多段変速のようなエンジン回転数の制御によって、力強くキレのある加速感を実現し、アクセル低開度では CVT 特有の滑らかな変速によって、エンジン性能を最大限に引き出して低燃費と高い静粛性を実現します。エンジンには外部 EGR^{*5} を新たに採用し、エンジン出力性能は維持しながら低燃費化を実現しました。

*5: Exhaust Gas Recirculation (排気ガス再循環)。排気ガスの一部を吸気に再循環することにより燃焼温度を下げ、NO_x 発生量を抑制するシステム

- スイッチ操作だけで確実に停車する電動パーキングブレーキ^{*6} を新採用しました。あわせて、信号待ちや渋滞での停車時にブレーキペダルから足を離しても停車状態を継続することができるブレーキオートホールド機能を採用し、ドライバーの負担を軽減することで、快適性を高めました。

*6: グレード別装備

- サスペンションは、フロントのストラット取付け部の剛性を向上させ、リヤはショックアブソーバーのシリンダーサイズを拡大すると共に、前後とも高性能バルブを新たに採用し、フラットで快適な乗り心地を実現しました。

(3) スマートフォンに配慮した快適装備や各種収納スペースを充実

- 便利な収納スペースはお客様の利便性を考慮してさらに充実させ、車内での快適性をより一層高めました。センターコンソールでは、スマートフォンを置くことができるよう大容量のオープントレイに変更、600ml のペットボトルを 4 本収納できるアームレスト^{*7}を追加するなど、収納スペースを充実させました。

*7: グレード別装備

- 後席でも細やかなホスピタリティにこだわり、アームレスト装備車ではフロアコンソール背面に Type-A と Type-C の USB ポートを 1 つずつ追加、2 列目シートのアームレストにカップホルダーを追加するなど、利便性を高めています。

以 上